

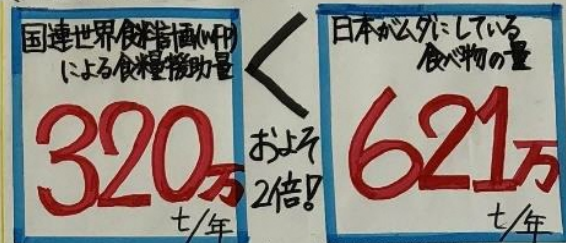
食品ロスを減らして 飢餓を救えないか?



上川, 宮崎, 石本, 松田, 川上, 中村, 松下

研究動機

- 「食品ロス」という言葉を最近よく耳にするようになり、調べていくうちに興味を持った。
- 日本には世界から注目される「もたない精神」がありながら、〈日本の食品ロスの現状〉日本は、有数の「食品ロス大国」であること。
- なぜ「食品ロス」は減らないのか。その一つは、「人々の意識の低さ」にあった。私たちには責任があること。また、行動に移さなければならぬこと。



世界の食料安全保障と栄養の現状より <http://www.unicef.or.jp/news/2018/0151.html>

研究内容

1 食品ロスを減らすには?

- 食品ロスが増える主な原因を調べる。
- コンビニや飲食店に聞き込みを行い、食品廃棄量や、食品ロスに対する具体的な取り組み等を調べる。

⇒ 現状を身近に感じることができる。
私たちに実践できる取り組みがないかを考える。



2 私たちにはどんな取り組みができるのか?

- ものを買うとき、作る時、頼むときに自分の必要最小限の量を考える。
- スマホのアプリを活用する。(例: 食品の保存期間を管理するアプリ「Reduce Go」)
- ラベル付きの商品を選んで購入する。

⇒ 身近なことから少しずつ取り組む。



〈サステナブル・ラベル〉



3 食品の廃棄にかかる費用が減るのでは?

- 食品ロスを減らすことができれば、それに伴って、食品廃棄にかかる費用も減少するのではないか。

食品廃棄物にかかる処理コストは、社会全体で年間約2777億円

(食品廃棄物の適正処理にかかる社会全体のコスト構造等の分析)

http://www.maff.go.jp/j/budget/yosan-kouji/sikkou/tokutei_kelhi/seika_h25/shokusan-ippan/pdf/h25-ippan-213-02.pdf



4 浮いた費用を、飢餓の支援のための費用にあてることはできるのか?

- 減少した費用を、飢餓をなくすための取り組みの費用にあてられないのか。
- 例に食料の寄付、医療の発達の支援など

世界では8億2000万人以上が飢餓に苦しんでいる。

9人に1人!!

意義・価値

- 地球温暖化や土壌汚染などの世界に与える影響について考えることができる
- 環境や飢餓について学ぶことで食品ロスを減らすことの大切さを学ぶことができる
- 食品ロス削減を促すためにまずは私たちが食品ロスについて知り、もし増え続けたらどうなるのかを考えるだけでなく、その結果、飢餓にどのような影響を与えるかを周りの人に伝えていく。

~参考文献~

- 「Edu Town SDGs」 <https://sdgs.edutown.jp/in/so/goals/html>
- 「世界の飢餓の人口増加続く 最近の国連報告書」 <https://www.unicef.or.jp/news/2018/0151.html>
- 「未来を変える目標 SDGs アイデアブック」 編著: 一般社団法人 Think the Earth

